2013.1.15

RENKEI School 開催報告書

実施責任者　椹木 哲夫（国際担当理事補）

oイベント名称：　The RENKEI Collaborating Across Cultures Researcher Development School in Kyoto

o会期：　2013 年 12 月 2 日（月）～2013 年 12 月 13 日（金）

o主催：　RENKEI (Research and Education Network for Knowledge and Economy Initiative)
京都大学（国際交流推進機構）

o共催：　デザイン学大学院連携プログラム

o会場：　京都大学百周年記念時計台ホール，楽友会館，京都大学吉田国際交流会館，
デザインイノベーション拠点，KRP，他．

o開催概要：

日英大学 11 大学のコンソーシアムである RENKEI の日本側幹事大学として，12 月 2 日～13 日の２週間の会期でウィンタースクールを京都大学が主催で開催した．企画は京都大学博士課程教育リーディングプログラム「**デザイン**学大学院連携プログラム」（以後，デザインスクールと称す）が主に担当した．本スクールの受講者は RENKEI 加盟大学 11 大学（京都大学・九州大学・名古屋大学・立命館大学・東北大学，ブリストル大学・リーズ大学・リバプール大学・ニューカッスル大学・サウサンプトン大学・UCL（University College London））から選抜された 2 名ずつ合計 22 名の博士後期課程学生とポスドク研究員で，すでに半年前の 7 月に英国ブリストル大学でのサマースクールに全員参加しており，その後も SNS を通じて交流を深めて来て再度京都に集った．英国から 3 名の教員と本学デザインスクール教員がファシリテータとして参加した．スクールの年間を通してのテーマとして「Urban Sustainability and Resilience」が設定されており，今回の Kyoto School では，日本での，そして京都における Design for Urban Sustainability and Resilience に関する固有の考え方を学び，これをもとに受講者が，日英比較を行いながら日英混合のグループで討議を重ね，最終的に 4 つのグループからプロジェクト提案を行った．また日英の学生同士がより深く知り合う上で，日本の文化や精神について，そして京都大学の歴史や日本の古典文学における和の精神に関する講義を受講したほか，京都市景観・まちづくりセンターや実際の町家（京都市指定有形文化財指定の長江家住宅）の見学と，さらに花柳流師範による日本舞踊や華道家元池坊の生け花の体験・実践学習を実施した．開催期間中には， RENKEI 加盟の日英 11 大学からの副学長クラスの代表者が視察に訪れたほか，受講生全員が京都市庁舎に門川大作京都市長の表敬訪問を行った．

本スクールの企画に際しては，英国発の博士課程人材教育プログラムとして注目を集めている「トランスファラブル・スキル・トレーニング」について，京都に固有な視点を盛り込み実践することを目指した．受講生達は，デザイン学を中心に提供されたグループ課題の日英両受講生による異分野協働を実践し，さらには日本の産業界からの代表者との意見交換に基づくビジネスモデルキャンバスの作成を通して俯瞰力を養い，そして日本文化に関わる講義ならびに体験・実践を通して欧米とは対照的なコミュニケーションスキルや，四季の移ろい・花鳥風月に対する審美感覚に触れることができた．異文化・異分野を背景とする若手研究者が互いに知り合い協業を実現して行く上で，互いの社会制度や文化的・精神的バックボーンの差異と共通点の認識が極めて重要となることを実感させられた 2 週間であった．

oプログラムの詳細：

初日 12 月 2 日の松本総長の歓迎挨拶で始まり，2 週間に亘って以下のようなプログラムが実施された．

1) Dec.2 (Mon) 10:45-12:30 “Urban sustainability and resilience - what it means for Japan and Kyoto (1)”

会場：楽友会館 2F（京都市左京区吉田二本松町）

寶 肇 教授（京都大学防災研究所）

（話題提供）**「リジリエント社会の実現に向けた自然災害と都市災害のリスク低減」**

講演では地球温暖化により自然災害のリスクがますます高まる中で，社会の備えるべき適応性やリジリエンスが求められていること，そして，この備えとしては，政策的なアプローチや自然災害に関する科学的アプローチのほかに，人的要因やコミュニティとしての組織要因・文化的風土からのアプローチが重要になることが示された．講演に引き続く討論では，日英の参加者から，様々な視点からの質問が寄せられ，とくに東日本大震災後の日本におけるリスク意識やコミュニティのあり方に関する認識がどのように変容したか，さらにどのように変わるべきかについての議論が交わされた．

2) Dec.2 (Mon) 14.00-15:45 “Urban sustainability and resilience - what it means for Japan and Kyoto (2)”

会場：吉田国際交流会館（京都大学吉田南構内）

http://www.opir.kyoto-u.ac.jp/kuiso/kaikan/yoshida/

門内 輝行 教授（京都大学工学研究科建築学専攻）

（話題提供）**「京都における町並み保存と「まちづくり」プロジェクト」**

講演では，まず町並みや景観といった個々の建築物ではなくその集合体としてのエリア一帯を対象としたデザインの重要性について述べられ，環境と人により形成される「関係性」を対象にしたデザインの重要性が力説された．次に，京都の町家ならびに景観を保存し持続性を保証して行く上で，障害となっている建築や税制に関する法規について具体例が示され，これらの障害を取り除くための産官学の連携による試みの数々について紹介された．とくにコミュニティとしてのガバナンスやエンパワメントの果たす役割が取り上げられ，住人やさまざまなセクターを取り込んだ参加型の景観デザイン支援ワークショップの実践が紹介された．そこでは歴史都市京都ならではの固有な住民意識やコミュニティへの帰属意識に関する考慮が決め手となるが，京都の町家の成り立ちについて詳細に講述され，その空間的配置や隣接家屋との関係，そして長年にわたって形づくられて来たコミュニティとして，異なるエリアスケールに対応するコミュニティへの二重帰属構造が，京都においてリジリエントかつサステイナブルな社会を築き上げる上で重要な要因になってきたことが示された．日英の異文化における町やコミュニティに対する意識や認識の違いが明らかになり，受講生から質問が相次ぎ，英国側ファシリテータからの追加質問が講師に別途寄せられた．

3) Dec.3 (Tue) “Presentations of the RENKEI School teams in front of representatives of academia and business”

会場：京都大学デザインスクール　KRPデザインイノベーション拠点（9号館 506号室）

前回の 7 月に開催されたブリストルでの RENKEI School 以降に，SNS 等を通じてまとめあげて来たプロジェクト提案について各グループから発表された．提示された「ビジネスモデルキャンバス」に沿って”Urban Sustainability and Resilience”のための提案をまとめ，日本側の企業代表者と京都大学産学連携本部の教授を前に発表を行った．その後，ラウンドテーブルディスカッションとして，企業毎に設定したテーブルを参加者グループがラウンドしながら，提案内容に関して議論を交わし，日本企業に固有な考え方や視点に立った評価を受ける機会をもった．日本からの参加企業は，三菱電機株式会社（田中氏，辻野氏），オムロン株式会社（中嶋氏），住友電工株式会社（村瀬氏），京都大学産連本部樋口教授．

4) Dec.4 (Wed) “Exploring and Discovering about Kyoto University and Japanese Culture”

会場：百周年時計台記念館 3F 国際交流ホール

10:15 – 11:15 **西山 伸 教授（京都大学大学文書館）**

（話題提供）**「京都大学の歴史」**

京都大学の開学以来の歴史について，とくに「学問の自由と大学の自治」という観点から，過去に京都大学が経験して来た数々の事案や事象に関する紹介がなされた．討論では現代の京都大学の学生気質に関する話題に及び，日英双方からの大学文化や風土に関する比較論や，現在の学生と教員との関係や，社会が大学に求めている意義やミッションの違いについての活発な議論が交わされた．

13:00 – 14:30 **河上 志貴子 准教授（京都大学国際交流センター）**

（話題提供）**「日本古典文学における和の精神**（”Japanese Sensitivities: Subtleties and Nuances in Classical Literary Expression”）**」**

短歌や俳句，古典文学における言葉による表現について詳細に講述され，古来より日本人が愛でてきた美とは何か，また花鳥風月に代表される日本人の自然に対する固有な感覚や，風流や雅として知られる独特の感覚について講演された．とりわけ，日本人の審美的感覚を特徴づけるものとして，四季の「移ろい」に対する感受性について様々な文学作品からの引用をもとにわかりやすく解説された．そしてその表現方法の根底に共通しているのが，「不確実性（uncertainties）」と「不完全性（imperfectness）」であり，この特質がいかに読み手に対して豊かで生き生きとした世界を想起させられるか，さらに同一の対象物に対してどれほど多くの表現が用意されており，それをいかに使い分けるかについての言葉への感受性の高さについて解説された．英国人参加者のみならず日本人参加者からも絶賛を博した内容であった．

15:00 – 17:30（エクスカーション）**「哲学の道」散策**

5) Dec.5 (Thu) “Demonstrations and Practice of Japanese Cultural Experiences”

会場：百周年時計台記念館 3F 国際交流ホール

10:00 – 12:00 **日本舞踊師範　花柳 智絹 氏（実技と演技指導）**

日本舞踊における決められた踊りの振りや小道具（手ぬぐいや扇子）の使い方などについての基本形について示され，それらを組み合わせることで，悲しい・嬉しいなど様々な感情を表現したり，また祭りのにぎわいの様子などの舞台上の情景を表現したりすることができることを実演とともに示された．また「男踊り」と「女踊り」の違いを実演され，最後に長唄「雨の四季」に合わせた踊りが披露された．最後に，受講生が舞台に上がり，扇子を使った振りの実技指導が行われた．先の 7 月に開催されたブリストル大学でのサマースクールでは，英国における演劇（ドラマ）の実技指導を伴ったコミュニケーションスキルの実技指導が盛り込まれていたが，日本流の身体表現はこれとは対照的であり動と静のコントラストが印象的な講義であった．なお本講義の実演に際して，講師の師匠に当たられる人間国宝 花柳寿南海様のご厚意により，お扇子 25 本をご提供頂いた．

13:00 – 16:00 **生け花　華道家元 池坊 総華督 渡邊 絹代 氏（実技と指導）**

生け花の基本的な概念として，まず生花について，草木固有の出生を尊重し，環境に応じて生育するという草木が共通してもつ性情に叶ういけ方によって，その花らしさや草木の内に息づく生命の輝きを端的に表そうとする様式について解説された．生花正風体では，古くより物のなりたちの基礎となってきた陰・陽や天・地・人になぞらえた真・副・体という役枝によって構成されていることが示され，この三つの役枝が一株となって特有の格調美を醸し出すことが実演とともに示された．またいける際には，花そのものとして完結するのではなく，これが飾られるところの床の間，茶室といったそれぞれの場に即した生け方があり，例として床の間において障子を介して差し込む太陽光が醸し出す陰翳を見越した生け方について解説された．まさに言語理論における意味論（semantic）・構文論（syntactic）・語用論（pragmatic）に対応していることが印象的であった．その他，生花新風体，自由花などのバリエーションについても実演され，生け花のもつ特徴として，「新たな生命を与える」「明日への希望」「品格」「季節感」「時間の流れ・風の流れ・水の流れ」といったコンセプトをいかに個々の花の強調・省略・

組み替えによって表現する芸術であるかについて総括された．講義の後，参加者全員が，それぞれに用意された花器・剣山・生花の提供を受けて，講師の個別指導のもとに作品を作り上げたが，日英の参加者の間での作風の差異が誠に印象的であった．なお本講義の実践に際して，講師の属される華道家元池坊総務所からのご厚意により，参加者 25 名分の花器，剣山をご提供頂いた．

6) Dec.6 (Fri) “Exploring Kyoto Classical Town Houses (Kyo-Machiya)”

9:15 – 10:40 **京都市景観・まちづくりセンター訪問**

11:00 – 12:30 **京都市の町家（長江家）見学**

12:30 – 17:00 **「100 人でつくる京都地図」実践ミニ・ワークショップ**

Collaborative Building of Subjective Map of Kyoto Classical Town

（実践と話題提供）**北 雄介 特定助教，荒牧 英治 特定准教授，中小路 久美代 特定教授（京都大学デザイン学ユニット）**

会場：本能寺会館

京都市景観・まちづくりセンターを訪問し，同センターの森川様から京都の町家の保存に関する課題や官からの取り組みについて解説を受けた．その後，職住一体型の典型的な町家の佇まいを今に伝える数少ない京町家の一つとして，2005年4月に「京都市指定有形文化財」の指定を受けた長江家住宅を訪問・見学し，解説を受けた．その後，参加者は京都の町並みに繰り出して，それぞれが町並みのどこに注意を向けて何を感じたかをツイートし，これをデザインスクールで開発しているスマートフォンを使ったソフトウェアシステムで集計し可視化して参加者に提示するイベントを実施した．日英の国民性による気づきの違いや動線，各箇所への滞留時間の差異などが可視化され，日英の受講生の感じるところの違いが印象的に現れた．その後，「地図」を「地」と「図」の醸し出す表現体として捉え，さまざまな種類の＜地＞にあたるものをいくつも準備しておき，同じ＜図＞を異なる2種類以上の＜地＞に表示させるという課題を受講生グループに課した．異文化による人の考え方やものの見方を変えることで，urban sustainability and resilienceに繋げられる地図をデザインする課題であり，議論が大変盛り上がった．

7) Dec. 9 (Mon) “Sustainable Service in Japanese Food Industries”

会場：KRPデザインイノベーション拠点（9号館 506号室）

15:00 – 16:00 （話題提供）**新村 猛 氏（がんこフードサービス株式会社代表取締役副社長，（独）産業技術総合研究所 サービス工学研究センター 研究顧問）**

「おもてなし」の精神は日本を特徴づける文化の一つであるが，これに関連して「サービス科学」の学術分野が日本では学会組織として立ち上がっている．関西を中心に和食店を展開するがんこフードサービス（大阪市）では，サービスの提供と消費が同時に起こる飲食店の店内を「いかに正確に観察するか」という難題に挑んでおり，その陣頭指揮に立つCIO（最高情報責任者）の新村猛専務取締役管理本部兼業務改革本部本部長を講師に招いて講義頂いた．サービス業に科学的な分析アプローチを持ち込むことで，目視による観察だけではとらえ切れない現場の事実を計測し，これをもとにサービスの改善にフィードバックし，そして客観的な事実に基づく経営判断へと繋げて行く仕組みについて解説された．まさにきめの細かいサービスと向き合い，それを学術として産学が取り組んでいる現状について，とくに英国側参加者には印象深かったとの感想が寄せられた．

なおこの講義に先立ち，RENKEI 加盟の日英11大学からの代表者（副学長クラス）がRENKEI Core Member Meetingに参加のために訪れ，午前中は京都大学本部棟にて吉川副学長・森国際交流推進機構長への表敬訪問を行い，その後 RENKEI School の視察を兼ねて会場であるデザインイノベーション拠点を訪問し，RENKEI School 参加者からの発表を聴講し施設の見学を行った．そしてその後，RENKEI Core Member Meeting の会場である京都ロイヤルホテルスパに移動し，会議後，RENKEI School 受講生，京都

大学本部関係者，ならびに京都大学デザインスクール関係者，ブリティッシュ・カウンシル・ジャパン関係者等とともに，がんこ二条苑での日本庭園の見学と呈茶，懇親会に参加した．講師の新村氏のご厚意により，懇親会の途中で寿司の握り体験が催され，何人もの英国側参加者が実演を行って大変盛り上がった．

7) Dec. 10 (Tue) "World Café on the Grand Challenges of Urban Sustainability and Resilience in a Japanese Context"

会場：KRPデザインイノベーション拠点（9号館 506号室）

9:15 – 10:45　**山内 裕 講師（京都大学経営管理研究部）**

（話題提供）**「伝統的寿司サービスについて」**

伝統的な江戸前鮨の本当の価値をグローバルに展開していくためのサービスのデザインについて講述された．回転寿司やロールなどの海外に広まったSushiは一つの成功したデザインであるが，伝統的な江戸前の鮨の価値を提供できてはいない．メニューもないところで提供され注文される緊張感のある環境，客と職人がお互いの知識をぶつけあうことにより生まれる味を越えた満足感，旬のものを酢飯に合わせていく伝統的技法など奥の深い価値を表現・提供できていない．鮨の業界のレビューのあと，実際に鮨屋で撮影したビデオを分析することで，その価値の本質を理解・表現し，そこから新しいコンセプトの提案を行うサービスのデザイン手法が示された．英国人にとっても日常化した寿司ではあるが，その食文化としての奥の深さについて驚きの声が上がるとともに，「サステイナブルなサービス」とは何かについての議論が盛り上がった．

13:00 – 17:15 World Café

Urban Sustainability and Resilience に関する Grand Challenges について５つのテーマを提示し，そのテーマ毎に 4～5 人単位の小グループに分かれて World Café を実施した．これはブレーンストーミングによる議論の収斂を図る一方で，メンバーの組み合わせを変えながら議論の発散を促し話し合いを続けることによってあたかも参加者全員が話し合っているような効果が得られる手法である．人々がカフェにある空間のようなオープンで創造性に富んだ会話ができる場とプロセスを用意することで，組織やコミュニティの文化や状況の共有や新しい知識の生成を行うファシリテーションプロセスの実践を行った．

またこの日の School 終了後には，森国際交流推進機構長ご令室様とそのご友人の方々のご厚意により，京都大学吉田キャンパス内の J-Pod にて，日英の参加者全員に対して和服（着物）の着付け体験の機会を設けた．参加者の全員が本当に生き生きと着物を着こなし，互いに写真撮影に興じている姿は，まさに日英異文化交流が息づく現場であり，誠に印象的な光景であった．

8) Dec.13 (Fri) "Design for Urban Sustainability and Resilience" 最終発表会

13:30-15:30

会場：デザインイノベーション拠点（KRP）（KRP 9号館，506室）

日英の学生同士が，これまでの活動を通じて学んで来た日英の文化や精神についての相互理解をもとに，それぞれの視点から現状の問題や課題を発掘し，その解決に向けて学際的かつ産学官で取り組むべき内容をプロジェクト提案としてまとめあげ，これについての発表を行った．英国ブリストル，日本京都での各２週間のスクールと，その間の受講生相互のコラボレーションを通してまとめあげて来た活動の集大成として位置づけられ，コメンテータとしてデザイン学の特定教員，特任教員が多数参加した．

o予算の概要

会期の 12 日間と前後泊の 14 日分の宿泊費，一部を除く食費，ロジ手配，講師への謝礼と交通費（学外者に限る），会場費（学外に限る）等は，すべて RENKEI 予算から支払われた．ブリティッシュ・カウンシル・ジャパンが RENKEI の事務局を務め，本学では国際交流推進機構（留学生課）とデザイン学

雇用の教務補佐員（領域予算・工学系）の共同で事務局を設置し，英国側大学との連絡調整業務を担った．海外からの School への履修生に対しては，京都大学として短期交流学生（受け入れ部局は国際交流推進機構）としての身分を付与し，最後に受講者全員に修了証書を国際交流推進機構長名にて授与した. デザインスクールからは, 会期中のデザインイノベーション拠点の会場提供, Dec.5 (Thu)と Dec.6 (Fri) のイベント開催に伴う予算についての助成を受けた．なお宿舎・ロジ・食事の手配は京都大学国際交流推進機構より委託された業者（近畿日本ツーリスト）が請負った.

oデザイン学への寄与

(1) 本スクールの受講生は博士後期課程学生とポスドク生に限定されることから，デザイン学本科生（現在修士 1 年生のみ）を正規の受講生として参加させることはできなかった．ただデザインスクール本科生と予科生に部分的にオープン参加の機会を認め，本科生が企画・準備段階から支援部隊として携わった．今後デザイン学として海外連携大学からの参加者を募り，本科生が博士進学時以降には，デザインサマースクールの国際版を開催していくことが今後の活動に不可欠である．今回の RENKEI School は，そのための試行と位置づけられ，英国で実践されているトランスファラブル・スキル・トレーニングの実際に触れられる機会であり, これらの手法をデザイン学の中でカスタマイズし独自のプログラムを開発して行くための学習の場となった.

(2) デザインスクールとして今後取り組むべき異文化・異分野協業のさまざまな方法論の実践を試行し，若手研究者としてのコミュニケーションや表現に関するスキルを教授していくために何が必要となるかについて，デザインスクール教員が学習できる場となった.

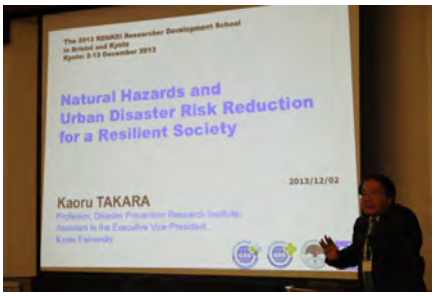
(3) 異文化･異文化を背景とする若手研究者が互いに知り合い協業を実現して行く上で, Speed Networking のためのスキル，そして，互いの社会制度や文化的・精神的バックボーンの差異と共通点の認識，そして歴史認識の共有が極めて重要となることを実感した. いずれも研究者としては基礎スキルであるものの，個々が培って来ている専門性と社会へのインパクトとの関係に気づける能力や，異なる分野や学際性を背景にしたグループ共同作業において, 議論の発散を促すとともに収斂を図れるファシリテータとしてのスキルの重要性を実感した.

(4) 会期中に実施された RENKEI 加盟大学の代表団ならびにブリティッシュカウンシルからのメディア取材を通じて，本学リーディング大学院デザイン学（デザインスクール）の国際的な周知がなされ，訪問された複数大学からデザイン学での国際連携の申し入れを受けた.

次頁以下に，スクール風景の写真の抜粋を掲載する.

1) Dec.2 (Mon) 10:45-12:30 “Urban sustainability and resilience - what it means for Japan and Kyoto (1)”

会場：楽友会館 2F，吉田国際交流会館（京都大学吉田南構内），カンフォーラ



2) Dec.3 (Tue) “Presentations of the RENKEI School teams in front of representatives of academia and business”

会場：KRP デザインイノベーション拠点（9 号館 506 号室）

3) Dec.4 (Wed) “Exploring and Discovering about Kyoto University and Japanese Culture”

会場：百周年時計台記念館 3F 国際交流ホール

5) Dec.5 (Thu) “Demonstrations and Practice of Japanese Cultural Experiences”

会場：百周年時計台記念館 3F 国際交流ホール

6) Dec.6 (Fri) “Exploring Kyoto Classical Town Houses (Kyo-Machiya)”

京都市景観・まちづくりセンター訪問，京都市の町家（長江家）見学

7) Dec. 9 (Mon) “RENKEI 加盟の日英 11 大学からの代表者（副学長クラス）による視察”

会場：KRP デザインイノベーション拠点（9 号館 506 号室）

がんこ二条苑での懇親会

8) Dec. 10 (Tue) “World Café on the Grand Challenges of Urban Sustainability and Resilience in a Japanese Context”

会場：KRP デザインイノベーション拠点（9 号館 506 号室）

和服（着物）の着付け体験

9) Dec. 11 (Wed) “京都市庁舎での京都市長表敬訪問”

10) Dec. 13 (Fri) “最終修了式と二次会でのひとこま”

RENKEI

Collaborating Across Cultures

The 2013 RENKEI Researcher Development School
in Bristol and Kyoto

Kyoto: 2 – 13 December 2013

Program

Host Institution: ***Kyoto University***

In Collaboration with
The Organization for the Promotion of International Relations (OPIR)
and
Collaborative Graduate Program in Design
Kyoto University

Background, aims and theme

Background – The RENKEI collaboration

RENKEI is the Japanese word for "collaboration" and in this context also stands for "Research and Education Network for Knowledge Economy Initiatives".

Eleven universities in the UK and Japan form the members of RENKEI, a partnership scheme, supported by the British Council, which aims to encourage knowledge transfer and research collaboration, not only between the two countries but also between higher education and industry as a whole. The following is a list of the eleven universities which have been involved in the formation of this new scheme.

UK	Japan
University of Bristol	Kyoto University
University of Leeds	Kyushu University
University of Liverpool	Nagoya University
Newcastle University	Ritsumeikan University
University of Southampton	Tohoku University
University College London (UCL)	

Aims of the School

The specific aims of the RENKEI Collaborating Across Cultures Researcher Development School are to:

1. Develop future research leaders with the skills to lead collaborations between different disciplines and cultures (in the broadest sense of the word, also to include academia and industry cultures).
2. Facilitate the formation of active collaborations between participants to achieve a tangible outcome.
3. Develop a sustainable network of researchers across Japan and the UK.

Urban Sustainability and Resilience

Our cities and the societies living in and around them face immense challenges arising from the growth of population, urbanisation, globalisation, climate change, ageing, resource scarcity, technology shifts, cultural diversity and conflict. Universities, their research communities and partners in industry and society can play a vital role in addressing these challenges. This School will explore how researchers can develop to take advantage of the diversity of disciplinary and societal cultures available to them to access new career opportunities.

Welcome to the Kyoto Leg of the 2013 RENKEI Researcher Development School!

Collaborating Across Cultures – A Learning Journey

Welcome to the Kyoto School! We have all been looking forward to reconnecting and to working together in Japan on the next stage of our journey.

We have already formed a mutually supportive and collaborative community through our work together in Bristol, when we used a UK and Bristol lens to help focus our activities. We are now re-focusing, using a Japanese and Kyoto lens.

Kyoto has a very long history, used to be a capital of Japan more than 1000 years, and it is still considered center of Japanese culture - there are still skilled artisans and craftsmen working in the city. Kyoto is often called "Japan's heartland" and is also a city for students; there exist more than 30 universities and colleges, and out of ten in the population are students. Kyoto is not only a center of traditional culture, but it is also a very modern city. The city has witnessed the birth of frontier technologies and global-scale successes of companies. Kyoto is a wonderful city in which to study and live since you will find the best of both of the old and new characteristics of Japan. You will be exploring aspects of this heritage during the Kyoto School, and relating what you learn back to the core RENKEI aims of promoting interdisciplinary and cross-cultural team working.

We hope that you will enjoy the School and that it will help you develop knowledge, skills and networks which will support effective interdisciplinary cross-cultural collaboration in the future. We are very much looking forward to working with you over the next two weeks.

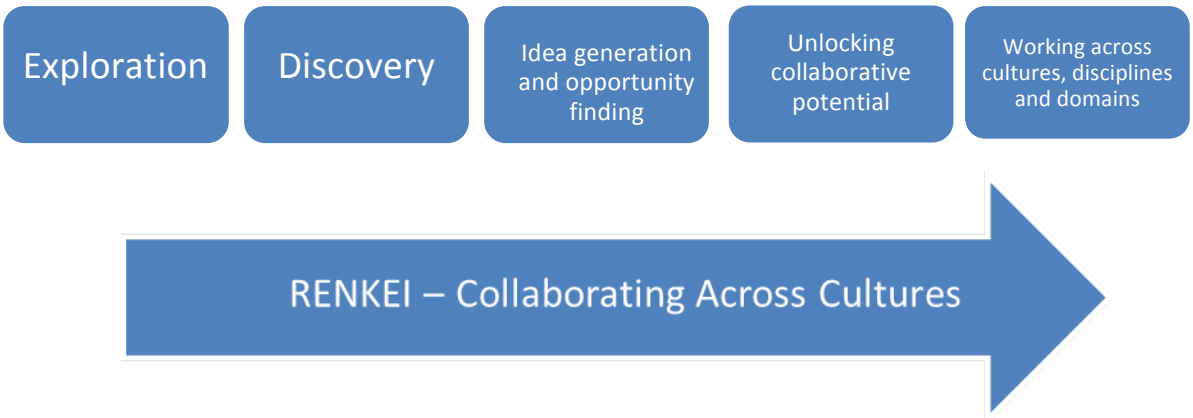
Dr Robin Humphrey, *Director of the Postgraduate Research Training programme, Faculty of Humanities and Social Sciences, Newcastle University*.

Dr Alison Leggett, *Head of Academic Staff Development, University of Bristol.*

Jane Nolan MBE*, Teaching Fellow in Enterprise, Visiting Entrepreneur, Newcastle University.*

Professor Junichi Mori, *Vice President for International Relations, and Director General, the Organization for the Promotion of International Relations (OPIR), Kyoto University.*

Professor Tetsuo Sawaragi, *Assistant to Executive Vice President for International Affairs, and Deputy Director, the Organization for the Promotion of International Relations (OPIR), Kyoto University.*



Day 1: Introduction to the themes of urban sustainability and resilience in Japan and Kyoto. Reconnecting with colleagues and preparing team presentations.

Day 2: Presenting your collaborative projects to representatives of academia and industry, and participating in round table feedback and discussions.

Exploration and Discovery

Days 3 and 4: Exploring the Grand Challenge of Urban Sustainability and Resilience through a Japanese lens. What do we need to know? What are the big questions? Exploring and discovering more about Japanese culture and letting our ideas start to develop.

Day 5: Exploring the Kyoto townscape: site visit and building a collaborative subjective map

Day 6: Presenting your RENKEI experience to the RENKEI Group

Idea generation and opportunity finding

Day 7: World Café to generate and start developing ideas for addressing the Grand Challenges of Urban Sustainability and Resilience in a Japanese context. Teams will develop their ideas.

Unlocking collaborative potential

Day 8 and 9: Teams work on their ideas

Working across cultures, disciplines and domains

Day 10: Presentations by the teams about the ideas inspired by the Japanese context, about their learning from the Bristol and Kyoto Schools, and how this will be taken forward in their careers as researchers working across cultures, disciplines and domains.

The Learning Environment

The RENKEI School aims to create a learning environment in which all participants feel safe to explore, be creative and participate fully. The responsibility for creating this environment is not only down to the facilitators but to every participant. This will include being respectful of each other and engaging fully in the activities.

In Bristol you created the following Learning Agreement as a group:

Appreciate differences
- Points of view
- Sensitivity to Cultural differences

Awareness in discussion
- Don't talk over people
- Equal contribution – don't dominate
- Try not to be shy!

Creating supportive learning community
- Do raise questions for clarification
- Don't be shy to talk about cultural difficulties
- Do provide constructive feedback (challenge idea, not person)

All ideas are valuable
- Express them without fear
- Listen to them with respect

When speaking
- Speak slowly, clearly and loudly
- Maintain eye contact

Team working
- Awareness of strengths and weaknesses
- Making sure everyone knows what they are doing

Commitment to the Group
- Engage with all the sessions (including evening activities)
- Be on time!
- Be present!
- Positive attitude
- Take care of each other

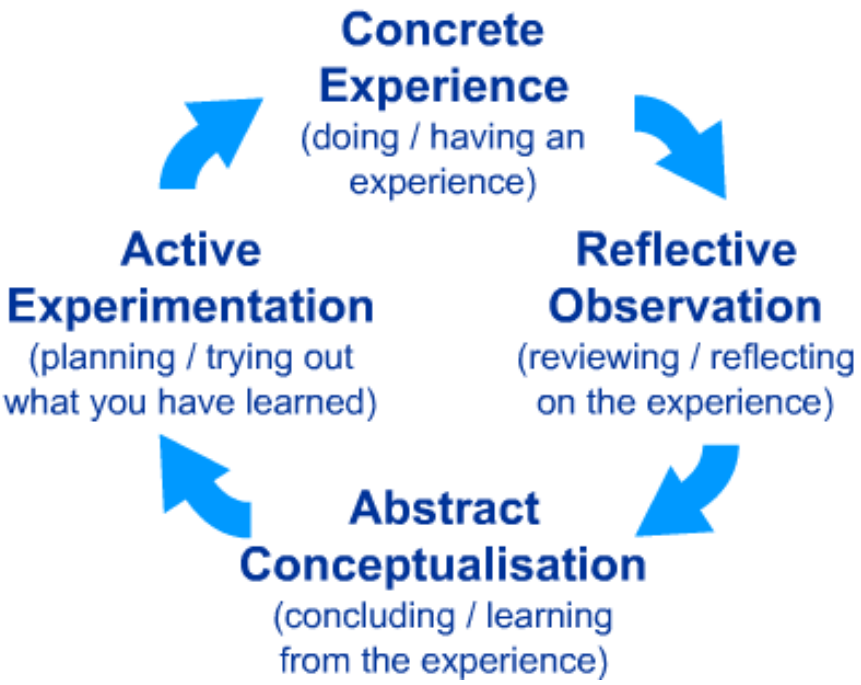
Reflection – a crucial part of the RENKEI School

At the end of each day, we will be asking you to do some reflection to aid and deepen the learning from each of the workshops. Reflection is "a generic term for those intellectual and affective activities in which individuals engage to explore their experiences in order to lead to a new understanding and appreciation".

Source: Boud, D. Keogh, R. Walker, D. (1985) *Reflection: Turning experience into learning.* London: Kogan Page.

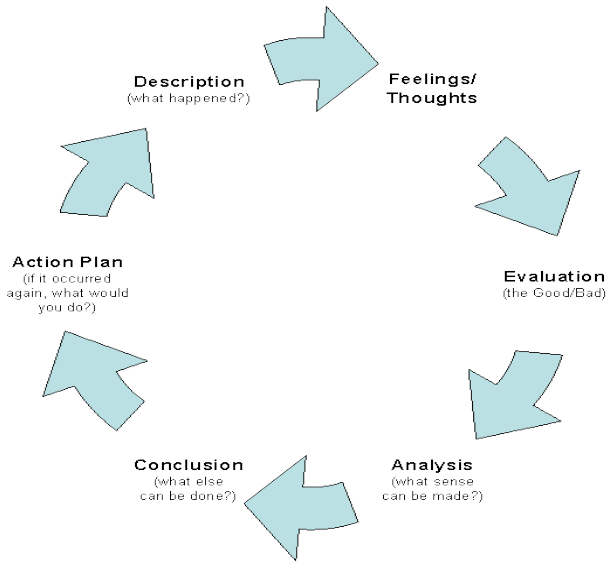
It is an opportunity to think clearly about what you are doing and about the experience you are having. It will help you to understand what you are learning in terms of knowledge, skills and about yourself, and what this means for you in the long term. Reflection can also help with creativity – making associations, finding new ideas and ways of thinking.

Two models of reflective practice are shown below:



Kolb's Reflective Cycle (1984)

Source: Kolb, D.A.(1984) *Experiential Learning*, New Jersey: Prentice Hall



Gibb's Reflective Cycle (1988)

Source: Gibbs, G., (1988) *Learning by Doing: A Guide to Teaching and Learning Methods*. Oxford: Further Educational Unit, Oxford Polytechnic.
Gibbs, G., (1998) *Learning by Doing: A Guide to Teaching and Learning*. London: FEU.

In your reflections

- Be honest – this is for you, and you alone.
- Be thorough – thoughts, ideas, questions, impressions, frustrations, insights, feelings.
- Include hopes, intentions, goals.
- What have you learned?
- Be explicit, using details, descriptions and examples - don't edit them, use a 'talking to yourself' approach.
- Think about the relevance of what you are learning to your personal development and your future

Reflective questions

We will provide you with specific reflective questions for each day but feel free to use some of these more general questions for your own notes:

- What have you enjoyed?
- What has surprised you?
- What has inspired you?
- What is the most valuable thing you have learned from each session and activity?
- What kind of knowledge and skills did you learn and use?
- What has challenged you?
- What might you do differently next time?

Be a reflective practitioner: someone who learns from their experiences by

- Critically reviewing their actions.
- Considering the impact of those actions.
- Planning what they would do in similar situations in the future.

Please take time to engage in this activity to get the most value out of it. We will suggest reflective questions for each activity, though we invite you to reflect on any aspect of your experience.

Idea Generation and Team Formation

The World Café

What will happen during the RENKEI World Café?

The World Café will take about two hours from start to finish.

Five tables will have been set out in Café format with flip chart paper, marker pens and post it notes. Tables will be labelled A-E. Each table will consider a different question, which will act as a provocation for the discussion. These questions will have been selected during the RENKEI School and will be meaningful and relevant provocations relating to the themes of urban sustainability and resilience.

The World Café organiser will set the context at the beginning of the session, explaining the divergent and convergent nature of the thinking required, giving some tips on creative thinking techniques such as brainstorming and brain writing, and establishing the rules of engagement (ideas should not be judged, criticised or evaluated during the divergent stage).

You will be given a post it note with a note of the order of the tables you will visit – this is worked out in advance using an algorithm to ensure that you will work with different people each time you move. At the end of each round of discussion, the organiser will blow a whistle and ask you to make your next move.

After each move, the table facilitator will have two minutes to summarise the developing discussions for the new group which will have arrived at the table, before the next round of brainstorming begins.

There will be five rounds of divergent thinking. After the fifth round, you will stop moving and will remain on the final table for the convergent thinking round, which will take 20 minutes, when the group you are working with will be looking for ideas or groups of ideas that you feel have potential to offer ways forward in response to the question on the table.

Each group will be invited to briefly present their preferred idea or group of ideas.

All the ideas will then be available for participants to consider and teams will research and develop an idea chosen from the World Café or an idea which has been sparked by the process.

The Presentations during the Kyoto School

You need to prepare for three presentations in Kyoto.

1. The first one, on Tuesday 3rd December, will be about your team idea and how that has developed between Bristol and Kyoto. This presentation will be made to industry representatives, academics and the British Council for Japan. They will be interested in how you have researched and evaluated the viability and sustainability of the idea as a potential enterprise and they will provide, short, general feedback following the presentations. Then, in order to make the most of the expertise and business experience which they bring, there will be round table sessions with the industry representatives so that each team can receive individual feedback, and have the opportunity to ask deeper questions, finding out more about the response to your ideas and about the issues in Japan surrounding their projects. This will help you start to apply a Japanese lens. You should have your Business Model Canvases and research data available for the round table discussions.

2. A presentation to the RENKEI Committee, made up of senior managers from all of your universities, on Monday 9 December. This presentation should include what you have learnt from the RENKEI School to date, including both the Bristol and Kyoto workshops, as well as the idea your team has been working on.

   In this presentation you should consider the broader aspects of the programme – the vision and spirit of RENKEI – and think about what the programme has meant for you and for your future. Has the programme provided you with any new or different perspectives? And has the experience enabled you to deepen your understanding of cross-cultural interdisciplinary collaboration, including working across the boundaries of academia, business and civil society?

   The RENKEI group have made a substantial investment in the School and they are interested to know about the impact it has had and the value it has created, and how this will carry forward into your future careers. It is hoped that lasting networks will be created. This initial programme will influence the development of future RENKEI Schools.

3. There will be a third presentation on the last day, Friday 13 December, which will be about the new idea that your team has developed in Kyoto, after the World Café on 10th December, which will focus on Resilience, as well as Urban Sustainability, through a Japanese lens. This presentation will be made to industry representatives, academics and the British Council for Japan. They will be interested in how you have developed, researched and evaluated the idea in a Japanese and Kyoto context, and its viability and sustainability as a potential enterprise.

   They will also be interested to know about your learning from the whole RENKEI experience in Bristol and Kyoto and how this will be taken forward in your future careers. There will be time during the second week in Kyoto to prepare for this presentation.

Day One: 2 December 2013

Venue: AM: Rakuyu-Kaikan (2F, Mtg.&Lec.Room) (**B** on map)
PM: Yoshida International House (B1F Lecture Room 6) in Main Campus (**C** on map)

Opening Ceremony, reconnection among the participants and preparation of your team's presentations on Day 2.

Facilitated by: Prof. Tetsuo Sawaragi, the organiser of RENKEI Kyoto School; Dr Robin Humphrey, Newcastle University; Dr Alison Leggett, University of Bristol; Jane Nolan MBE, Newcastle University.

Speakers: Prof. Kaoru Takara and Prof. Teruyuki Monnai, Kyoto University

Time	*Activity*
09.00	**Arrival**
09.15	**Welcome to RENKEI Kyoto School** Prof. Tetsuo Sawaragi, Assistant to Executive Vice President for International Affairs, Kyoto University, the organiser of RENKEI Kyoto School.
09.30	**Welcome to Kyoto University** Dr Hiroshi Matsumoto, the President of Kyoto University
09.45	**Introductions to the RENKEI Kyoto School programme and what to expect in Kyoto.** Prof. Tetsuo Sawaragi Dr Robin Humphrey, Dr Alison Leggett and Jane Nolan MBE.
10.30	**Refreshment Break**
10.45	**Urban sustainability and resilience - what it means for Japan and Kyoto (1)** Facilitated by: Prof Sawaragi "**Natural Hazards and Urban Disaster Risk Reduction for a Resilient Society**" Speaker: Prof. Kaoru Takara
12:30	**Lunch → (Change the venue to Yoshida International House)**
14.00	**Urban sustainability and resilience - what it means for Japan and Kyoto (2)** Facilitated by: Prof. Sawaragi **"Urban Sustainability from Perspectives of Japanese Lens"** Speaker: Prof. Teruyuki Monnai
15.45	**Refreshment Break**
16.00	**Reconnection with other participants and your teams, and preparation of your presentations for Day 2.** How has RENKEI made an impact on us as individuals – sharing some reflections.
17.30	**Reflection**
17.45	**Close**

Evening programme:
18.00- Informal Dinner at
Restaurant Camphora, Kyoto University (**I** on map)
http://www.kyoto-u.ac.jp/en/access/coop/index.htm

Day Two: 3 December 2013

Venue: Kyoto Research Park (KRP) Bldg. No.9, Room 506 （Kyoto University Design Innovation Center）(**A** on map)

In the morning, there will be time for preparation of presentations scheduled to be delivered in the afternoon to the RENKEI School team and representatives of academia and business.

Guests from industry (Additional Facilitators):
Mr Ken-ichi (Ken) Tanaka, General Manager, Advanced Technology R&D Center, Mitsubishi Electric corp.; Dr Katsuhiko (Jino) Tsujino, Advanced Technology R&D Center, Mitsubishi Electric corp.; Dr Hiroshi Nakajima, Chief Specialist of Technology, OMRON Corporation; Dr Toru MURASE, Chief Technologist, R&D general management unit, Sumitomo Electric Industries, Ltd.

Guest from academia (Additional Facilitator):
Prof. Shuji Higuchi, SACI (Society-Academia Collaboration for Innovation), Kyoto University.

Facilitated by: Prof. Tetsuo Sawaragi, Dr Robin Humphrey, Dr Alison Leggett and Jane Nolan MBE.

Note: Please bring your luggage to the Ryokan reception **at 8.00am** so that be collected for moving them by bus to Kyoto Garden Hotel. This bus also drives you to the venue on the day.

Time	*Activity*
09.00	**Arrival**
09.15	**Preparation for the presentations**
11.30	**Refreshment Break**
11.45	**Presentations / First session (two groups)** Each group will present for 20 minutes, and then there will be a further 10 minutes for general questions from the industry representatives and other members of the audience.
12.45	**Lunch**
13.45	**Presentations / Second session (two groups)** Each group will present for 20 minutes, and then there will be a further 10 minutes for general questions from the industry representatives and other members of the audience.
14.45	**Refreshment Break**
15.00	**Round table** The industry representatives will sit at separate tables, and will give a brief introduction to themselves and their companies. Then teams will go to each table in turn to get individual feedback on their presentation and business idea, asking deeper questions and finding out more about the response to their ideas and about the issues in Japan surrounding their projects.
17.30	**Reflection**
17.45	**Close**

Free Evening

Day Three: 4 December 2013

Venue: Kyoto University Historical Exhibition Room, International Conference Hall #3 in the building of Kyoto University Clock Tower (**D** on map)

Please Note: Upon arrival in the venue, please get together at the entrance hall of the building as the tour will start from 9:30am at 'Kyoto University Historical Exhibition Room' on the first floor.

Speakers:
Prof. Shin Nishiyama (Kyoto University Archives)

Assoc. Prof. KAWAKAMI, Bonnie Jennifer Shikiko (The International Center, Kyoto University)

Facilitated by Prof. Tetsuo Sawaragi, Dr Robin Humphrey, Dr Alison Leggett, and Jane Nolan MBE.

Time	*Activity*
09.15	**Arrival**
09.30	**Historical tour of Kyoto University** Arranged by Prof. Shin Nishiyama
10.00	**Refreshment Break**
10.15	**Lecture of Kyoto University History** Presented by Prof. Shin Nishiyama
11.15	**Q&A and discussion**
11.45	**Lunch**
13.00	**Lecture of Classical Japanese culture and Japanese literature** Presented by Assoc. Prof. Bonnie Jennifer Shikiko Kawakami
14.30	**Q&A and discussion**
15.00	**Refreshment Break**
15.15	Let's take a stroll along the Philosopher's Path while practising meditation. Please walk in UK/Japanese pairs to reflect on the day's ideas – which have been the most striking? http://www.japan-guide.com/e/e3906.html
16.45	**Reflection time**
17.00	**Close**

Free Evening

Day Four: 5 December 2013

Venue: International Conference Hall #3 in Kyoto University Clock Tower (**D** on map)

Lecturer: Professor, Tomokinu Hanayagi
A certified instructor as So-katoku, Kinuyo Watanabe
(Translator: Mr Hiroshi Watanabe)

Demonstrations and Cultural experiences:
Demonstrations of the classical Japanese dance and the Japanese art of flower arrangement ("Ikebana") are provided. The Japanese classical "fan" (called "sensu") is provided to each participant, which plays a very important role in Japanese dance, and by handling this little tool performers can express a plenty of different meanings to the audience with a very simple gesture. Then we turn to the spirits of Japanese flower arrangement; especially with respect to how to coordinate a diversity and a variety of individual flowers into an organized "whole" with a plenty of meanings and rich messages from the designers of flower arrangements to the observer (i.e., appreciators or viewers). After the talk, all students are expected to design their own arrangement actually using cut flowers and a vase for holding flowers.

Facilitated by Prof. Tetsuo Sawaragi and Assis. Prof. Mikako Nishikawa, Dr Robin Humphrey, Dr Alison Leggett, and Jane Nolan MBE.

Time	*Activity*
09.00	**Arrival**
09.15	**Preliminary Meeting** Introduction: What would the participants experience on the day?
10.00	**Set up the venue and preparations for classical Japanese dance** According to the instruction of the lecturer (by all)
10.30	**Explanations and demonstration of the Japanese dance**
11.30	**Taking a lesson of Japanese Dance!**
12.00	**Lunch**
13.00	**Set up the venue and preparations for Flower Arrangement** According to the instruction of the lecturer (by all)
13.30	**Explanations and demonstration of Flower Arrangement**
14.30	**Refreshment Break**
14.45	**Taking a lesson of Flower Arrangement**
16.00	**Reflection time**
16.30	**Close**

Evening programme:
19:00- Informal Dinner at
Izakaya: Kyoto Dining "Oinai Ichiba Ko-ji", located in Kyoto Mitsui Building B1F (**J** on map)

Day Five: 6 December 2013

Venue: Kyoto Center for Community Collaboration (meeting point will be announced) and Kyoto Research Park (KRP) Bldg. No.9, Room 506 (Kyoto University Design Innovation Center) (**A** on map)

In the morning, a site visit to Kyoto Center For Community Collaboration is scheduled including the visit to Kyoto classical town houses ("machiya").
In the afternoon, a trial of collaborative building of a subjective map of Kyoto classical town:
Students are expected to explore a new neighbourhood in a walking tour of downtown Kyoto city carrying smart phones and tweeting when they discover something interesting. Discussions of similarities and differences between the UK and Japanese tweets will take place in groups.

Facilitated by Prof. Kumiyo Nakakoji, Assoc. Prof. Eiji Aramaki and Dr Yusuke Kita from Kyoto University Design School.

Time	*Activity*
09.00	**(Meeting point is to be announced)**
09.15	Visiting to Kyoto Center for Community Collaboration and Kyoto classical town houses ("machiya")
12.30	**Lunch**
13.30	**Exploring downtown (details are to be announced)** Arranged by Kyoto Design School researchers
17.00	**Getting back to KRP**
17.15	**Review of the day and Participant Feedback on Week 1**
18.00	**Reflection time**
18.30	**Close**

Free evening

Day Six: 9 December 2013

Venue: Kyoto Research Park (KRP) Bldg. No.9, Room 506 (Kyoto University Design Innovation Center) (**A** on map)

Presentations of what you have learnt from the RENKEI School to date: to the RENKEI committee.

Learning about the Japanese culture of service and hospitality as part of our approach to finding ideas and new approaches to our theme.

Speaker: Dr Takeshi Shimmura, Executive Vice President and Member of the Board, Ganko food service Co., ltd., Research Adviser, National Institute of Advanced Industrial Science and Technology.

Facilitated by Dr Robin Humphrey, Dr Alison Leggett, and Jane Nolan MBE.

Time	*Activity*
09.00	**Arrival**
09.00	**Preparations for the presentations**
10.45	**Refreshment Break**
11.00	**Presentations (from four groups: 30min. per group)**
13:00	**Feedback from the committee members**
13.30	**Lunch (at 'Science Centre Club' in KRP Bldg. No1, 2F)**
15.00	**Presentation by Dr Takeshi Shimmura on "Sustainable Food Service in Japan"**
16.00	**Q&A, Discussion**
16.30	**Close**
	Moving to the venue for the evening programme
17.30	**Japanese Garden Tour and Having a Green Powdered Tea ("Matcha") Served** Arranged by Dr Takeshi Shimmura
18.30	**Evening programme**

Evening programme:
17:30- Japanese Garden Tour and Formal dinner at
Japanese restaurant "Ganko Takasegawa Nijo-en" (**L** on map)
Dr Takeshi Shimmura will take us to the Japanese restaurant of GANKO Takasegawa Nijoen, a mansion that has been used as a vacation home for the powerful and wealthy of the day for nearly 400 years. It has an elegant and splendid garden and now provides guests from the general public with a dining space where they can enjoy the garden together with delightful Japanese cuisine. The location is superb, with the Takase River flowing through the delightful garden. The food is elegantly presented and is a full-course Kyoto cuisine, and the RENKEI core meeting visitors from UK and Japan will also join the formal dinner herein.
http://www.gankofood.co.jp/en/

Day Seven: 10 December 2013

Venue: Kyoto Research Park (KRP) Bldg. No.9, Room 506 (Kyoto University Design Innovation Center) (**A** on map), and International Seminar House 'j.Pod' in Kyoto University Main Campus for Wearing Kimono (**E** on map)

Idea generation and development, World Café

Japanese Cultural Experience; Kimono Wearing
The kimono, a beautiful traditional garment, is a source of pride for Japanese. In the evening time, all the students are to get dressed up in kimono, both females and males. The kimonos are prepared to all participants from UK and Japan. A short kimono-wearing class will be provided, and all students will have their pictures taken whilst dressed in kimono. Please enjoy!

Facilitated by Jane Nolan MBE, Dr Robin Humphrey, Dr Alison Leggett, Prof. Tetsuo Sawaragi and Assis. Prof. Mikako Nishikawa.

Speaker: Dr Yutaka Yamauchi, Senior Lecturer (aka Assistant Professor) at Kyoto University, Graduate School of Management

Time	*Activity*
09.00	**Arrival**
09.15	**Inputs about key themes:** **Lecture on Service Science by Dr Yutaka Yamauchi**
10.45	**Refreshment Break**
11.00	**Groups reflect to decide on topics and questions** **Jane to brief facilitators to set up for World café**
12.00	**Lunch**
13.00	**World Café**
15.00	**Refreshment Break**
15.15	**World Café (Cont.)**
17.15	**Reflection**
17.30	**Close**
18:30	**Cultural Experience: Kimono Wearing**

Free Evening

Day Eight: 11 December 2013

Venue: Kyoto Research Park (KRP) Bldg. No.9, Room 506 (Kyoto University Design Innovation Center) (**A** on map) and Kyoto City Hall (**b** on map)

Developing and resetting ideas working as teams and preparing for the final presentations on 13 December. We will also make a courtesy visit to the mayor of Kyoto City, Daisaku Kadokawa.

Facilitated by Prof. Sawaragi, Dr Robin Humphrey, Dr Alison Leggett and Jane Nolan, MBE

Time	*Activity*
09.15	**Arrival**
09.30	Briefing on the preparations for presentation on Day Ten
10.00	**Refreshment Break**
10.15	Work on with teams
12.00	**Lunch**
13.00	Work on with teams
14.45	**Refreshment Break**
15.00	**Move to the Kyoto City Hall**
16.00	**Courtesy visit to the mayor of Kyoto City, Mayor Daisaku Kadokawa**
17.00	**Close**

Evening Programme:
19:00- Informal Dinner at
Tofu Restaurant "JUNSEI" (**M** on map)
http://www.to-fu.co.jp/en/index.html

Day Nine: 12 December 2013

Venue: Kyoto Research Park (KRP) Bldg. No.9, Room 506 (Kyoto University Design Innovation Center) (**A** on map)

Developing and resetting ideas working as teams and preparing for the final presentations on 13 December.

Facilitated by Prof. Tetsuo Sawaragi, Dr Robin Humphrey, Dr Alison Leggett and Jane Nolan, MBE.

Time	*Activity*
09.15	**Arrival**
09.30	**Free to work in your teams for the presentations**
	Refreshment available anytime
	Free to work in your teams for the presentations
12.00	**Lunch**
13.00	**Free to work in your teams for the presentations**
15.00	**Refreshment Break**
16.45	**Reflection**
17.00	**Close**

Free Evening

Day Ten: 13 December 2013

Venue: Kyoto Research Park (KRP) Bldg. No.9, Room 506 (**A** on map) (Kyoto University Design Innovation Center)

Making the final presentation of RENKEI Bristol and Kyoto School to an audience drawn from business and academia.

Facilitated by Prof. Tetsuo Sawaragi, Assis. Prof. Mikako Nishikawa, Dr Robin Humphrey, Dr Alison Leggett and Jane Nolan, MBE.

Time	*Activity*
09.30	An opportunity to work on and practise your presentations in the venue
12.00	**Networking lunch with guests (at Banquet Hall in KRP Bldg No.4 B1F)**
13.00	Introduction to afternoon session by School organizers
13.30	Team presentations
16.00	Reflecting on the last two weeks, thinking about the experience of the School in Bristol and Kyoto and about the question “where next?”.
17.00	Close

Evening programme:
19:00- Formal Dinner at
Italian Restaurant
"THE SODOU HIGASHIYAMA KYOTO" (**N** on map)
http://www.thesodoh.com/en/

RENKEI

www.renkei-researcher-schools.org